

新病院建設 News

カラダの異常をみつける 縁の下の力持ち 臨床検査科

今回は 16 号ニュースで紹介した検査（自動分析）に続き心電図やエコーを検査する生理機能科、組織や細菌を検査する病理検査科、中毒センターを紹介します。

新病院では検査室は 2 階に位置し、外来や救急と検査室の動線がよりスムーズになります。また、自動分析科、生理機能科、病理科、中毒センターが隣接して配置することでスタッフ間の連携が、とりやすくなります。

エコー室を快適に！

検査時間が比較的長いエコー検査は新病院では個室となり、プライベートを保てる設計となります。

また、検査ベッドが上下可動式に加えリクライニング式となり、より安全に移動でき検査時の様々な大勢にも対応でき患者さんの負担が少なくなります。

受付が 1 カ所になります！

今まで、心電図、エコーなど別々の部屋で窓口がわかれており、戸惑っていた患者さんも多かったのですが、受付をひとつにカウンターを設置することで一目でわかるようになります。

放射線科

病理科の POINT は裏面へ

動線の短縮

新病院では各検査科が近くに設置してあり、動線が短縮でき、効率化が図れます。また検査間の連携もとりやすくなります。

連携を重視

中毒センターは現病院では検査室とは別室ですが、新病院では検査室内に設けられます。検査各科と連携がとりやすくなります。

細菌検査室

前室 清潔区域

分離ゾーン

判定ゾーン

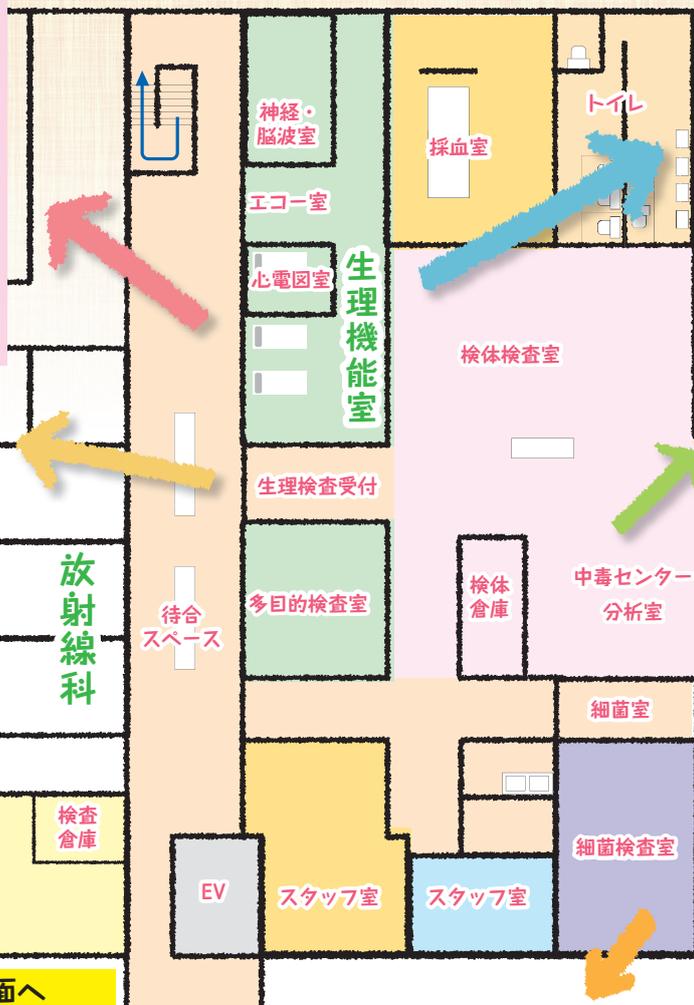
同定ゾーン

細菌検査室の Point

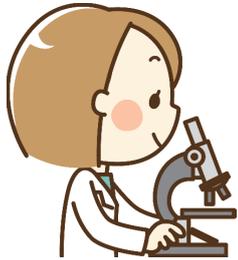
検査室の間取りは「前室」「清潔区域」「検査室」の 3 つで構成されます。（右図参照）

作業に合った動線を考えて機器の配置を考えたので仕事の効率化を期待できます。

感染制御システムを新病院では新たに導入します。多職種での連携が強化され、細菌の検出や治療薬の分析など機能面の向上が期待でき、感染症の診療・治療をサポートします。



病理検査は正確な治療を行うための重要なポイント



病理検査とは、病気（疾患）の診断や原因（病因）の究明を目的として、手術又は検査で採取された臓器、組織、細胞などを対象に顕微鏡等を用いて詳しい診断を行う検査です。特に病理組織検査は患部から採取した検体であることが多く、病理診断での結果が最終診断となることもあります。

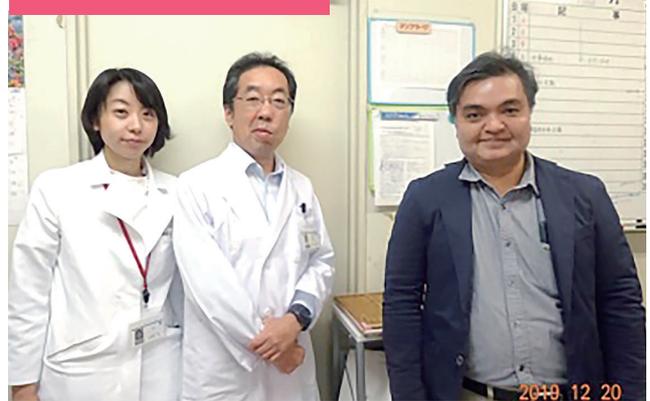
臨床検査部 病理科とは？

病理診断部門（細胞診断、生検組織診断、手術標本組織診断、手術中の迅速診断および病理解剖）から成り立っています。

顕微鏡室



病理医室



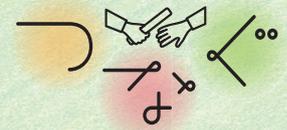
Point

新病院では、検査室のレイアウトを一から見直し、各種検査機器を作業目的に合わせて合理的に配置するとともに、安全面にも注意し、効率的かつ良好な作業環境を整備しました。また新しい装置を導入することで、時間短縮と診断精度の向上も可能となります。病理科は直接患者さんと対面する機会の少ない部門ですが、精度の高い検査結果をより早的確に担当医へ報告することで、患者さんの治療へ還元し、医療の質向上を目指します。

さらなる安心を

ひとことリレー

健和会と患者さんを



生理機能検査室
科長 藤本 慎一

新大手町病院竣工に向けて、
新病院にかける意気込み・各部門の特徴を紹介します！

臨床検査技師は正確に迅速に検査結果を提供することでチーム医療に参画しています。その中でも生理機能検査は心電図をはじめとし超音波検査、肺機能検査、神経検査、聴力検査など患者さんに直接触れる検査です。それ故患者さんを思いやりながら検査を進める気遣いの心が非常に大事だと感じています。わかりやすい窓口、スタッフ移動による患者さんの検査の待ち時間の短縮、快適なベッド移乗、等、新しい生理機能検査室は患者さんのために変わります。

また、ベッド搬送などもスムーズに行えるよう導線を考え他部署の皆さんにもやさしい生理検査室でありたいと思っています。旧病院ではフロアが分かれていた検体検査室・病理検査室と同フロアとなりますので臨床検査室としてもより連携を深めていきます。